



First record of *Ryukyupercis gushikeni*  
(Perciformes: Pinguipedidae) from the Satsunan  
Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畑, 晴陵, 前川, 隆則, 栗岩, 薫, 中江, 雅典, 本村, 浩之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00031234">http://hdl.handle.net/10232/00031234</a>

## 奄美大島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のワニトラギス

畑 晴陵<sup>1</sup>・前川隆則<sup>2</sup>・栗岩 薫<sup>3</sup>・中江雅典<sup>3</sup>・本村浩之<sup>4</sup><sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科<sup>2</sup> 〒 894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 6-16 株式会社前川水産<sup>3</sup> 〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館動物研究部<sup>4</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## ■ はじめに

トラギス科魚類は日本近海において 29 種が知られる (荻原・遠藤, 2011; 島田, 2013; 日比野ほか, 2013). そのうち, ワニトラギス *Ryukyupercis gushikeni* (Yoshino, 1975) は, 沖縄島近海から得られた個体に基づき記載され, 長らくトラギス属 *Parapercis* に含まれてきた (例えば, 吉野, 1984; Shimada, 2002). その後, Imamura and Yoshino (2007) は本種を単型属であるワニトラギス属に帰属した.

奄美大島の魚類相を調査する過程で, 2017 年 4 月 10 日に 1 個体のワニトラギスが採集された. 本標本は本種の薩南諸島における初めての記録となるとともに, 本種の分布の北限を更新するものとなるため, ここに報告する.

## ■ 材料と方法

計数・計測方法は Yoshino (1975) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. ワニトラギスの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された奄美大島産の標本 (NSMT-P 131130) のカ

ラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 国立科学博物館に保管されている. 本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り: NSMT—国立科学博物館; SMBL—京都大学フィールド科学教育研究センター.

## ■ 結果と考察

*Ryukyupercis gushikeni* (Yoshino, 1975)

ワニトラギス (Fig. 1; Table 1)

標本 NSMT-P 131130, 体長 259.6 mm, 鹿児島県奄美大島近海 (名瀬漁港で購入), 2017 年 4 月 10 日, 前川隆則

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した. 体は細長く, 前後方向に長い円筒形. 体背縁は背鰭起部にかけて緩やかに上昇し, そこから背鰭第 10 軟条起部にかけて体軸とほぼ平行となり, そこから背鰭基底後端にかけて極めて緩やかに下降する. 体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて極めて緩やかに下降し, そこから臀鰭起部にかけて体軸とほぼ平行となり, そこから臀鰭基底後端にかけて極めて緩やかに上昇する. 尾柄部においては体背縁, 体腹縁ともに体軸に平行. 背鰭起部は胸鰭基底上端よりも僅かに後方に, 背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも僅かに前方に, それぞれ位置する. 背鰭棘部と軟条部は鰭膜によって連続し, 背鰭背縁では棘部と軟条部の間に欠刻がある. 背鰭第 9 軟条よりも後方の背鰭軟条は糸状に伸長する. 腹鰭起部は鰓蓋後端よりも前方に位置し, たたんだ腹鰭の後端は肛門に達しない. 腹鰭第軟条は第 4 軟条が最長. 胸鰭

Hata, H., T. Maekawa, K. Kuriwa, M. Nakae and H. Motomura. 2017. First record of *Ryukyupercis gushikeni* (Perciformes: Pinguipedidae) from the Satsunan Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima*, 44: 17–20.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

Published online: 7 Nov. 2017

[http://journal.kagoshima-nature.org/NK\\_044/044-005.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/NK_044/044-005.pdf)



Fig. 1. Fresh specimen of *Ryukyupercis gushikeni* from Amami-oshima island, Satsunan Islands, Kagoshima Prefecture, Japan (NSMT-P 131130, 259.6 mm standard length).

基底上端は鰓蓋後端よりも僅かに後方に、胸鰭基底下端は背鰭起部よりも僅かに後方にそれぞれ位置する。たまた胸鰭の背縁は前部で体軸と平行

であるが、中央部で下方に凹む。胸鰭腹縁は直線状。胸鰭後端は尖り、臀鰭起部よりも僅かに後方に達する。臀鰭起部は背鰭第5軟条起部直下に位

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of specimens of *Ryukyupercis gushikeni*.

	This study	Yoshino (1975)	
	Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan NSMT-P 131130 Non-type specimen	Okinawa-jima island, Okinawa Prefecture, Japan SMBL F-7331 Holotype of <i>Parapercis gushikeni</i>	<i>n</i> = 4 Paratypes of <i>Parapercis gushikeni</i>
Standard length (SL; mm)	259.6	300.5	241.2–297.2
Counts			
Dorsal-fin spines	6	6	6
Dorsal-fin rays	20	20	20
Anal-fin spines	1	1	1
Anal-fin rays	18	18	18
Pectoral-fin rays	23	24	23–24
Pored lateral-line scales	58	60	58–59
Scale rows from base of first anal-fin ray to lateral line	14	13	12–14
Scale rows from anal opening obliquely backwards to lateral line	13	14	13–14
Circumpeduncle scales	28	29	28–29
Cheek scales	12	12	11–12
Measurements (%SL)			
Head length	25.5	26.2	25.3–26.1
Snout length	8.3	9.0	8.1–9.0
Orbit diameter	5.5	6.1	5.6–6.8
Interorbital width	4.8	5.7	5.2–5.8
Upper-jaw length	12.0	12.2	11.9–12.5
Caudal-peduncle depth	10.6	11.3	10.7–11.2
Body depth	19.6	21.9	17.1–20.9
Longest dorsal-fin spine length	10.4	9.6	10.6–11.1
Longest pectoral-fin ray length	25.7	25.3	24.2–25.5
Longest pelvic-fin ray length	17.8	17.9	15.6–17.9
Longest caudal-fin ray length	22.5	22.6	22.8–24.0
Dorsal-fin base length	64.7	62.2	63.2–66.2
Anal-fin base length	44.9	45.3	43.7–45.0

置する。尾鰭後縁は中央部が後方に突出し、後縁上部と下縁はともに直線状。尾鰭上部は糸状に僅かに伸長する。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は正円形を呈し、後鼻孔は背腹方向にやや長い楕円形。眼と瞳孔はともに正円形を呈する。口裂は大きく、体軸に対し斜めに位置し、上顎後端は瞳孔後端直下に僅かに達しない。下顎は上顎よりも僅かに前方に突出する。両顎歯、鋤骨歯、および口蓋骨歯は微小な円錐形で、絨毛状に密生する。上顎前部には左右1対の、下顎前部には左右2対の犬歯状歯がある。頭部を含む体は櫛鱗に被われるが、両顎、吻部、鰓蓋後部、峡部、および各鰭は無鱗。側線は鰓蓋上方から始まり、尾鰭基底中央部にかけて体側中央部を体背縁とほぼ平行にはいる。鰓蓋上部には棘がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状を呈し、下縁は円滑。鰓蓋骨後縁は円滑。

**色彩** 生鮮時の色彩 一体背面から体側中部にかけては桃色がかった赤色を呈し、体側下部から体腹面は白色。体側には瞳孔径よりも細い黄色縦帯が多数ある。眼から吻部にかけては瞳孔径とほぼ同じ幅の黄色斜帯がある。眼の後方に黄色斜帯が2本ある。背鰭各棘は黄色を呈し、各棘間の鰭膜は縁辺部が黄色を呈し、基底部付近では白色がかかる。背鰭各軟条は基底部付近で明るい黄色を呈し、中央部で桃色。背鰭軟条部の縁辺は前部で黄色を呈し、後部で白色。背鰭軟条部下には桃色に縁取られた、瞳孔径よりも幅の狭い黄色縦帯が2本ある。背鰭各軟条間の鰭膜は白色を呈し、桃色に縁取られた黄色斑が多数ある。腹鰭は桃色を呈し、基底部付近の鰭膜は黄色。縁辺部は白色がかかる。胸鰭は淡い桃色を呈し、基底部付近は黄色。臀鰭は白色を呈し、下部に赤色帯がある。臀鰭各軟条下部には黄色斑が1つずつある。臀鰭各軟条間の鰭膜の基底部には小黄色斑が各1つある。尾鰭は赤色がかった白色を呈し、瞳孔よりも小さい赤色斑点が散在する。虹彩は黄色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

**分布** 日本、インドネシア・スラウェシ島、フィリピン・パナイ島、パプアニューギニア・マダン、およびオーストラリア北西岸における分布が確認

されている (Yoshino, 1975; 島田, 2013; Larson et al., 2013; Fricke et al., 2014; Motomura et al., 2017)。日本国内においては沖縄島からのみ記録されていたが (Yoshino, 1975; 島田, 2013)、本研究により奄美大島における分布が確認された。

**備考** 奄美大島産の標本は、前鰓蓋骨後縁が強い鋸歯状を呈すること、鋤骨歯と口蓋骨歯が絨毛状を呈すること、背鰭が6棘20軟条からなり、背鰭棘部と軟条部の間に深い欠刻を有すること、背鰭棘は第4棘が最長であり、最後棘は鰭膜によって背鰭第1軟条とつながること、胸鰭中央部の軟条と背鰭軟条が伸長すること、胸鰭が23軟条であることなどが、Yoshino (1975) によって報告された *Parapercis gushikeni* および島田 (2013) によって報告された *Ryukyuperis gushikeni* の標徴によく一致したため、本種に同定された。

Yoshino (1975) はワニトラギスの標徴の一つとして下顎前部に左右で4対の犬歯状歯があることを述べたが、奄美大島産の標本は下顎前部に左右で2対の犬歯状歯をそなえる。しかし、Yoshino (1975) はワニトラギスの多くの個体において1本または2本の犬歯状歯が脱落していると述べており、奄美大島産の標本と Yoshino (1975) によって報告されたワニトラギスにみられた下顎の犬歯状歯の数の差異については、種内変異と判断した。

*Ryukyuperis gushikeni* は Yoshino (1975) によって *Parapercis gushikeni* として沖縄島近海から得られた5個体に基づき記載された。その後、本種の国内における分布は沖縄島からのものに限られ (島田, 2013)、薩南諸島を含む琉球列島各地における沖縄島以外からの分布報告はない。したがって、本研究の記載標本は本種の薩南諸島における標本に基づく初めての記録となり、同時に本種の分布の北限をおよそ150 km 更新した。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の作製・撮影に際しては鹿児島大学総合研究博物館の森下悟至氏に多大なご協力を頂いた。以上の

方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS研究奨励費(DC2: 29-6652), 笹川科学研究助成金(28-745), JSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS研究拠点形成事業—Bアジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性・島嶼プロジェクト)学長裁量経費の援助を受けた。

## 引用文献

- Fricke, R., Allen, G. R., Andréfouët, S., Chen, W.-J., Hamel, M. A., Laboute, P., Mana, R., Tan, H. H. and Uyeno, D. 2014. Checklist of the marine and estuarine fishes of Madang District, Papua New Guinea, western Pacific Ocean, with 820 new records. *Zootaxa* 3832 (1): 1–247
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県と論島から得られた日本初記録のホムラトラギス(新称) *Parapercis randalli*. *魚類学雑誌*, 60: 129–134.
- Imamura, H. and Yoshino, T. 2007. *Ryukyuperpis*, a new genus of pinguipedid fish for the species *Parapercis gushikeni* (Teleostei: Perciformes) based on the phylogenetic relationships of the family. *Bulletin of the Raffles Museum Supplement*, 14: 93–100.
- Larson, H. K., Williams, R. S. and Hammer, M. P. 2013. An annotated checklist of the fishes of the Northern Territory, Australia. *Zootaxa*, 3696: 1–293.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. 2017. *Ryukyuperpis gushikeni* (Yoshino 1975). P. 190 in Motomura, H., Moromura, H., Alama, U. B., Muto, N., Babaran, R. P. and Ishikawa, S. eds. Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 荻原豪太・遠藤広光. 2011. 鹿児島県志布志沖から得られたアマノガワクラカケトラギス(新称) *Parapercis lutevittata* (ワニギス亜目: トラギス科)の記録. *日本生物地理学会会報*, 66: 261–266.
- Shimada, K. 2002. Pinguipedidae. Pp. 1059–1064, 1586–1587 in Nakabo, T. ed. *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*. English edition. Tokai University Press, Tokyo.
- 島田和彦. 2013. トラギス科. Pp. 1258–1264, 2088–2091. 中坊徹次(編). *日本産魚類検索 全種の同定*, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Yoshino, T. 1975. *Parapercis gushikeni*, a new mugiloid fish from the Ryukyu Islands. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 22 (5): 343–346.
- 吉野哲夫. 1984. ワニトラギス. P. 279, pl. 361-F. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編). *日本産魚類大図鑑*. 東海大学出版会, 東京.